

1-2

平成 15-16 年度厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合 研究事業

保健・医療・福祉領域の電子カルテに必要な看護用語の標準化と事例整備に関する研究  
( 15150501 )

研究代表者：水流 聡子

<研究組織>

水流 聡子	東京大学大学院工学系研究科 助教授
中西 睦子	国際医療福祉大学保健学部看護学科 教授
川村 佐和子	東京都立保健科学大学保健科学部看護学科 教授
宇都 由美子	鹿児島大学医学部保健学科 助教授
石垣 恭子	島根大学医学部看護学科 教授
坂本 すが	NTT 東日本関東病院 看護部長
村上 睦子	日本赤十字社医療センター
井上 真奈美	山口県立大学 看護学部

【研究の背景と目的】

全国標準の看護関連マスターが存在しないため、電子カルテ等の導入が高コストになっている。電子カルテ導入を計画している病院では、それぞれの病院で看護関連マスターを準備しなければならないため、看護師の負担になっており、結局中途半端なマスターレベルに終わり、時間切れでそれらを使用せざるを得ない状況にある。そのため、看護の専門性を明確に示した電子記録が蓄積されにくい状況を作り出し、正当な評価が困難となり、電子カルテの価値が示しにくい状況を作り出している。

本研究では、患者への情報開示を促進し、病院のケアの質保証戦略・医療制度・医療政策に有用な知見を加工できる電子カルテをめざし、必要とする看護関連マスターの研究開発を行う。

【先行研究】

水流らの研究（平成 14-15 年度文部科学研究助成金）によって、看護実践を専門的視点から見た場合のモデルフレームが、以下のように提示されている。

「スタンダードケア（基本看護実践）」については、平成 15 年度、厚生労働省が提示する電子カルテのための看護マスターの用語集の原案として、採用されている。「プログラムドケア（高度専門看護実践）」の開発研究が必要とされている。

高度専門看護実践標準用語 (プログラムドケア) Programmed care	
看護師の資格を有するものであれば、その品質を保証して実施できる看護ケア。保健・医療・福祉のいずれの領域においても共通して存在する看護ケア	特定の看護目標を達成するため、多様な関連理論を用いて構成する一連の計画的ケアで、対象の状態や変化に対応する行為の選択肢が多岐にわたっているもの
<b>日常生活ケア (116)</b> 家族支援 (14) 指導・教育 (86) 組織間調整 (16) 機器などの装着に伴うケア(11) 死者および遺族に対するケア (6) その他 (5) <看護行為総数: 254件>	<b>一般領域 (62)</b> 認定看護領域 (構築中) 専門看護領域 (構築中) 助産・母性領域 (76) 在宅領域 (21) 地域看護領域 (構築中) <看護行為総数: 159件>

#### 【電子カルテの中で必要とする看護用語の種類】

電子カルテの中の看護部分は、現実的な看護ケアサービス提供の過程を支援するものでなければならない。その過程で発生する情報は、看護のみでなく他部門・他職種が情報共有できるものもあり、チーム医療を促進するものであることが望ましい。医学と同様に看護の場合も、問題解決過程にそった以下の看護過程がある。これらの看護過程毎に必要な看護用語マスターを以下に整理した。

- ① 患者情報の収集 (看護アセスメントに必要な患者情報：患者プロフィールマスター・患者観察マスター)
- ② 看護アセスメント (看護の視点からとらえた患者の問題：看護問題マスター)
- ③ 看護ケア計画の立案 (看護問題に対する看護ケア計画：看護計画マスター)
- ④ 看護ケア実施 (看護ケアオーダーの発行とその実施：看護行為マスター)
- ⑤ 評価 (実施した看護の結果評価・プロセス評価・構造評価：看護評価指標マスター)

#### 【本研究で開発する看護マスター】

##### ① 患者プロフィールマスター・患者観察マスター

(先行の水流研究の中で、広島大学病院で開発・実装した。本研究ではこれをさらに整理・充実させる)

- ② 看護問題マスター (新規に研究開発)
- ③ 看護計画マスター (新規に研究開発)

- ④ 看護行為マスター（既存の研究成果を基盤として、臨床現場での誤りのない利用が容易となるよう、必要とする周辺課題に対する対応法を研究開発する）

- 現在の臨床で必要度の高いプログラムドケアの研究開発
- マスター内の看護行為名称と俗名称との対応表の研究開発  
（シソーラス開発）

\*なお、看護評価指標マスターは、上記の①～④が整備され、電子カルテ上にデータ蓄積がなされたときに、看護評価指標の開発研究が容易になると考えられるため、今回の研究対象からは除外する。

#### 【研究計画概要と担当研究者】

平成 15・16 年度

- ◆ 患者プロフィールマスター・患者観察マスター（水流）
- ◆ 看護行為マスター
  - ・ 現在の臨床で必要度の高いプログラムドケアの研究開発  
水流・中西・川村・坂本・村上・井上
  - ・ マスター内の看護行為名称と俗名称との対応表の研究開発  
中西
- ◆看護問題マスター（宇都・石垣・水流）

既存の看護問題について、各病院で準備しているものを調査・分析する。  
看護問題に関する用語集の作成
- ◆看護計画マスター（宇都・石垣・水流）

既存の看護計画について、各病院で準備しているものを調査・分析する。  
看護計画のモデル集の作成

【開発するプログラムドケア】 \*各担当者は別紙

#### 一般

退院調整

高度なコーディネーション

クリティカルケア

高度先進医療に伴うケア

モニタリングケア

疾患の自己管理教育プログラム

糖尿病管理教育プログラム・ストマ管理教育プログラム・透析管理教育プログラム

摂食・嚥下教育プログラム・褥そう予防治療教育プログラム

ストーマケア  
褥そう予防・治療  
緩和ケア  
感染  
精神看護  
手術看護  
病床リハビリ  
小児看護  
介護家族ケア  
遠隔看護

助産

在宅ケア

地域看護:

災害看護

【研究会議日程】

第1回全体会議	1月28日(水)13:30-17:00	
第2回全体会議	2月20日(金)13:30-17:00	
第3回全体会議	3月19日(金)13:30-17:00	
第4回全体会議	4月23日(金)13:30-17:00	(案)
第5回全体会議	5月21日(金)13:30-17:00	(案)
第7回全体会議	6月25日(金)13:30-17:00	(案)
第8回全体会議	7月23日(金)13:30-17:00	(案)

## ◆患者プロフィールマスター・患者観察マスター

水流聡子 (東京大学)

溝上五十鈴 (広島大学医学部・歯学部附属病院)

## ◆看護行為マスター (高度専門看護実践標準用語)

## 一般領域

退院調整	川村佐和子 (東京都立保健科学大学)
高度なコーディネーション	嶋森好子 (京都大学医学部附属病院)
クリティカルケア(ICUケア・CCUケア)	嶋森好子 (京都大学医学部附属病院)
クリティカルケア (NICUケア)	村上睦子 (日本赤十字社医療センター)
高度先進医療に伴うケア	嶋森好子 (京都大学医学部附属病院)
モニタリングケア	佐藤エキ子 (聖路加国際病院)
疾患の自己管理教育プログラム	
糖尿病管理教育プログラム	河口てる子 (日本赤十字看護大学) *代理 松田悦子 (日本赤十字看護大学)
透析管理教育プログラム	岡美智代 (北里大学) *代理 山名栄子 (山形大学 修士)
摂食・嚥下教育プログラム	江口隆子 (札幌麻生脳神経外科病院)
ストマ管理教育プログラム	真田弘美 (金沢大学/併) 東京大学
褥そう予防・治療教育プログラム	真田弘美 (金沢大学/併) 東京大学
ストーマケア	真田弘美 (金沢大学/併) 東京大学
褥そう予防・治療	真田弘美 (金沢大学/併) 東京大学 *代理 菅野由貴子 (東京大学)
緩和ケア	(調整中)
感染	小島恭子 (北里大学病院)
精神看護	萱間真美 (東京大学)
(周)手術看護	竹内登美子 (岐阜大学)
手術室看護	(必要性を検討中)
病床リハビリ看護	江口隆子 (札幌麻生脳神経外科病院)
栄養 (保留:萌芽的なものも含め,現実的な看護実践の存在が不明なため)	
小児看護	来生奈巳子 (厚生労働省) 丸光恵 (北里大学)
介護家族ケア	勝野とわ子 (都立保健科学大学)
遠隔看護	川村佐和子 (東京都立保健科学大学)

## 助産

成田伸 (自治医科大学)

村上睦子 (日本赤十字社医療センター)

在宅ケア

川村佐和子（東京都立保健科学大学）

地域看護

村嶋幸代（東京大学）

災害看護

山本あい子（兵庫県立看護大学）・・・（交渉中）

◆看護行為マスター（基本看護実践）・・・研究分担者

- ・必要なケア事例整備

水流聡子（東京大学）

中西睦子（国際医療福祉大学）

川村佐和子（東京都立保健科学大学）

坂本すが（NTT 東日本関東病院）

村上睦子（日赤医療センター）

井上真奈美（山口県立大学）

- ・マスター内の看護行為名称と俗名称との対応表の研究開発

中西睦子（国際医療福祉大学）

◆看護問題マスター

宇都由美子（鹿児島大学）

石垣恭子（島根医科大学）

水流聡子（東京大学）

◆看護計画マスター

宇都由美子（鹿児島大学）

石垣恭子（島根医科大学）

水流聡子（東京大学）

1-4

看護実践用語標準マスターに収載する用語一覧(案)

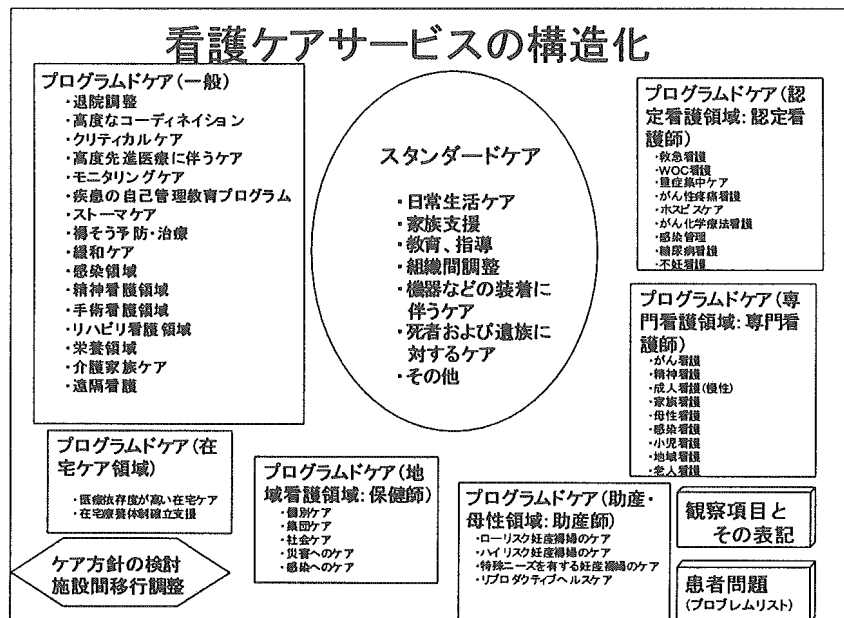
<看護行為編>

基本看護実践標準用語

高度専門看護実践標準用語

<関連組織>  
 ■平成14-15年度文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)  
 「電子カルテ間のデータ交換を実現する看護実践分類および用語のモデル開発」研究班

高度専門看護実践標準用語 (プログラムドケア) Programmed care	
<p>看護師の資格を有するものであれば、その品質を保証して実施できる看護了。保健・医療・福祉のいずれの領域においても共通して存在する看護ケア</p>	<p>特定の看護目標を達成するため、多様な関連理論を用いて編成する一連の計画的ケアで、対象の状態や変化に対応する行為の選択枝が多岐にわたっているもの</p>
<p>日常生活ケア (116)                      家族支援 (14)                      指導・教育 (86)                      組織間調整 (16)                      機器などの装着に伴うケア(11)                      死者および遺族に対するケア (6)                      その他 (5)                      &lt;看護行為総数: 254件&gt;</p>	<p>一般領域 (62)                      認定看護領域 (構築中)                      専門看護領域 (構築中)                      助産・母性領域 (76)                      在宅領域 (21)                      地域看護領域 (構築中)                      &lt;看護行為総数: 159件&gt;</p>



1-5

## 看護用語の標準化作業（評価版）の公表について

（財）医療情報システム開発センター

現在、当財団では電子カルテ等で利用する標準的な「看護マスター」の作成に取り組んでいます。

このたび、皆様のご意見、コメント等をいただきたく、マスター作成作業中の評価版を公開させていただくことにいたしました。特に今回の評価版はチーム医療を支援するためのクリティカルパス、電子経過表に利用することを想定し作成いたしました。

今後、皆様からいただいた、ご意見、コメント等をもとに、実際に現場で利用できるものにするための作業を行う予定です。

つきましては、現状の分類、用語についてのご意見、コメント及び不足している用語の提案等をお寄せいただけますようお願い申し上げます。

本件に関連する資料は下記項番5からダウンロードできますので、ご覧のうえ、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

また、ご意見等の入力方法は下記項番6に記載しております。

なお、看護用語の標準化事業（看護マスターの作成）の概略は以下に記載しております。

1. 背景
2. 目的
3. 完成年度
4. 標準化作業の基本方針
5. 関連資料のダウンロード
6. 「看護実践用語標準マスター」の評価、ご意見について
7. お問い合わせ先



## 1. 背景

オーダーリングシステムや電子カルテの普及に伴って、医療機関では診療情報が急速に電子化されつつあります。しかしながら、診療情報の「標準的な用語・コード」が存在しないため、各医療機関で独自の用語・コードが用いられており、医療機関間での電子的情報交換やデータベース作成が困難になり、わが国全体として非常に非効率な情報化となっているのが現状といえます。

周知の通り、平成13年12月、厚生労働省より今後5年間の保健医療分野の情報化についての方向性が「保健医療情報分野の情報化に向けてのグランドデザイン」として、公表されました。この中でも、電子カルテ等医療機関の情報化には、「標準的な用語・コード」は極めて重要なものと位置付けられています。

当財団では現在、厚生労働省の委託事業として、標準的なマスターの作成に取り組んでおり、既に「病名マスター」、「手術・処置マスター」、「医薬品マスター」、「臨床検査マスター」、「医療材料データベース」を作成し公開しているところです（ダウンロード無償：<http://www.medis.or.jp>）。また、「看護用語」の他に「症状・所見」、「歯科分野」の標準化にも取り組んでいます。

## 2. 目的

現在、医療機関の情報化において、誰でも利用できる公開された看護分野のマスターは存在しません。そこで、電子カルテ等で実際に利用できる看護用語の標準的なマスターを作成することを目的としています。

## 3. 完成年度

平成15年度中の完成を目標とするもの

- ① 看護行為<基本 看護実践> ……すべて
- ② 看護行為<高度専門 看護実践>……助産領域・在宅領域
- ③ 観察項目とその表記<初期一覧としての項目・表記>  
③は今後公開予定です。

## 4. 標準化作業の基本方針

### (1) 標準化の作業範囲

看護分野は、看護過程全般に渡る広い範囲が対象となります。今回は、初期作業として、看護が、患者（家族・クライアント）に何を提供しているのかを示す「看護行為」に注目することになりました。看護行為の固まりとその名称を特定し、用語一覧を作成することで、電子カルテ、電子経過表、クリティカルパスの中に、実施行為および予定行為として記録ができます。看護計画・看護オーダーシステム等の中での利用もできます。

一方、ある「看護行為」を実施することの妥当性は、そのときの「患者状態」にあります。患者状態は、「観察行為（測定・計測等を含む）」から発生する「観察項目」と「その表記」によって、示唆されます。これらの用語は、電子カルテ、電子経過表、クリティカルパス

でも必要となります。

よって初期作業としては、早急な整備が必要と思われる「看護行為」と「対象の状態（看護観察項目とその表記）」について、「看護実践用語標準マスター」の作成を進めることになりました。

## （２）検討体制

当財団に看護の専門家からなる「看護用語の標準化検討委員会」を設置し、実施しています。

### 看護用語の標準化検討委員会 委員名簿

（平成15年12月現在）

（五十音順、○：委員長）

石垣 恭子	島根医科大学医学部看護学科
宇都 由美子	鹿児島大学医学部保健学科
上鶴 重美	社団法人日本看護協会 政策企画室
川村 佐和子	東京都立保健科学大学保健科学部看護学科
来生 奈巳子	厚生労働省医政局看護課
栗原 由美子	島根県立石見高等看護学院
坂本 すが	N T T東日本関東病院
水流 聡子	東京大学 大学院工学系研究科
○中西 睦子	国際医療福祉大学保健学部看護学科
藤咲 喜丈	保健医療福祉情報システム工業会 看護情報システム専門委員会
藤村 龍子	東海大学健康科学部
山西 文子	国立国際医療センター

## （３）今までの作業経過

これまでに以下の作業が実施されました。委員会では、これら一連の作業および作業に協力して下さった方々・諸組織（別紙）に感謝するとともに、最終的なゴールに向かうべく、総括作業を行っております。

### <第1段階>

オーダリングシステム等を導入している施設で実際に利用している用語（電子データ）の中から、「看護行為」等を表現する用語を収集（7,503件）し、そのうち、医療処置等をのぞく、看護裁量の大きい日常生活ケア・指導教育など3,776件を、今回の作業対象領域としました。

（「MEDIS-DC 看護行為用語収集作業班」で収集・仮分類別に整理）

### <第2段階>

それら用語の重複・類義語等の確認作業を行い、収集用語の構造上の特性を分析した後、名称選択・再分類しました。

(「日本医療情報学会課題研究会：電子看護記録研究会」に作業委託)

文献：水流聡子・石垣恭子・宇都由美子・高見美樹：臨床で使用されている看護行為名称の分析，医療情報学，23(1)，65-76，2003)

### <第3段階>

本委員会において、これまでの経過と収集・整理された用語リスト等について確認し、委員会の作業上、参考となる看護実践を表現する既存の用語リストや研究について検討しました。その結果、国際的なもの（ICNP，NIC等）は、今回の看護マスターとしては利用困難であり、日本の看護実践をより忠実に表現する用語一覧が必要と判断されました。既存の用語に関する一覧（用語リスト・辞典・学会提示用語・諸研究）を部分的・全体的に示す検討材料として以下のものを取り上げました。

- ① MEDIS-DC 収集用語：前述第1段階（調査協力病院と在宅で使用している看護行為用語 3776 件）
- ② ①を JAMI 課題研究会で分析整理した結果：前述第2段階（目的別 23 分類、総計 153 行為）
- ③ 各種看護辞典
- ④ 関連する研究報告

④-1) 中西睦子：平成 10 年度～11 年度文部科学省 科学研究費補助金報告書「看護実践を記述する用語の構造の解析および用語体系の構造に関する基礎的研究」 2000

④-2) 川村佐和子 監修：在宅療養支援のための医療処置管理看護プロトコル，日本看護協会出版会 2000

④-3) 上鶴重美：平成 13 年度厚生科学研究費補助金（21 世紀型医療開拓推進研究事業）報告書「わが国における看護共通言語体系構築に関する研究」

④-4) 日本看護科学学会看護学術用語検討委員会：生活行動への直接的援助に関する領域の用語検討結果報告書 <http://jans.umin.ac.jp/>，2002

④-5) 平成 14-15 年度文部科学省科学研究補助金 基盤 B(1) 電子カルテ間のデータ交換を実現する看護実践分類および用語のモデル開発（代表：水流聡子）

④-5)は、上記すべての研究成果と、取り扱い可能な各研究のオリジナルデータ、新たな調査の実施結果を用いて、総合的に電子カルテのための看護用語モデルフレームを開発研究していました。当該研究の成果物には、MEDIS-DC 収集用語が含まれており、また、本委員会での検討対象となっていた看護実践用語関係の研究が網羅されていたことから、本

委員会とこの研究チームとの相互フィードバック体制をとることで、早急な看護用語マスターの実現を目指すことになりました。平成15年5月末の本委員会において、当該研究チームから提供を受けた看護用語モデルフレーム内の用語一覧の中に、小児看護分野における用語が不足している可能性が、本委員会委員から指摘されました。その後、小児看護分野の用語確認および用語追加の作業を実施する作業班を設置し、平成15年9月初旬に、小児分野における看護用語の強化のための検討作業を実施いたしました。その作業結果は、研究チームにフィードバックされ、当該研究チームと本委員会小児看護分野の用語検討作業班責任者と合同の検討会議が開催され、用語の充実が図られました。

当該モデルフレームは、臨床現場で使用されている用語から帰納的方法論で開発されてきていますが、臨床現場ですぐに使用できるレベルにまで至っているかどうかの最終的な検証（全国調査）までには至っていません。そこで、本委員会では、それら用語一覧が臨床現場で使えるかどうか、混乱の少ない利用のためにはどのような情報を提供すればよいか、等に関する調査（施設調査・web 公開調査）を実施することになりました。この調査結果を踏まえ、ケア事例・説明の追加を図るとともに、必要とするメカニズムづくり（コード化・維持管理体制・実装使用例の提示など）まで準備して、標準マスターが整備されたことになると考えました。

これまでの作業工程を一覧すると以下のものであり、現在⑧⑨を実施している状態です。

- ① オーダリングシステム・電子カルテの看護関連部分の状況・およびマスタファイルの状況に関する情報収集
- ② 標準化対象のうち、優先される用語領域の選択
- ③ 看護行為に関する用語の収集作業計画の設計
- ④ 看護行為に関する用語収集作業
- ⑤ 収集された看護行為用語の基礎分析
- ⑥ 看護実践を表現する用語研究リストアップと当該研究で得られた知見の活用
- ⑦ 研究チームとの相互フィードバック作業
- ⑧ 実用化に向けた課題整理
- ⑨ a) 全国400床以上の病院のトップ看護管理者に対する調査の実施  
b) インターネットによる公開調査

(協力組織)

**看護行為用語収集作業班メンバー**

(平成14年8月現在)

○印：用語収集作業者

- 池上峰子 神戸大学医学部附属病院 看護部・医療情報部  
○石垣恭子 島根医科大学医学部看護学科  
○宇都由美子 鹿児島大学医学部保健学科 \*作業班班長  
○佐藤ひとみ 北海道大学医学部附属病院 看護部  
○竹本敬子 JR東京総合病院 看護部  
○高森志津江 東北大学医学部附属病院 看護部  
○水流聡子 広島大学医学部保健学科  
○吉永富美 医療法人近森会 近森病院 看護部  
○柏木公一 国立看護大学校  
○栗原由美子 島根県立中央病院看護局  
○高見美樹 島根医科大学 医学部看護学科  
上鶴重美 社団法人 日本看護協会 政策企画室  
○本道子和 東京都立保健科学大学 保健科学部看護学科  
葛西圭子 NTT東日本関東病院

(以下は、平成13年度のみ参加)

- 大野ゆう子 大阪大学医学部保健学科  
藤崎郁 聖路加看護大学 大学院博士課程  
柏木聖代 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座

**日本医療情報学会(JAMI)課題研究会：電子看護記録研究会作業メンバー**

(平成14年9月現在)

- 水流聡子 広島大学 \*当該課題研究会代表幹事  
石垣恭子 島根医科大学 \*当該課題研究会副代表幹事  
宇都由美子 鹿児島大学 \*JAMI看護部会会長  
高見美樹 島根医科大学

**小児看護分野における看護用語検討作業メンバー**

(平成15年9月現在)

- 来生奈巳子 厚生労働省医政局看護課  
丸光恵 北里大学看護部

田 中 千 代 岐阜県立看護大学  
 油 谷 和 子 北里大学病院  
 松 内 佳 子 北里大学病院  
 松 林 知 美 北里大学病院  
 水 流 聡 子 東京大学大学院工学系研究科

本委員会との相互フィードバック体制を敷いた研究チームメンバー

(平成 15 年 12 月現在)

平成 14-15 年度文部科学省科学研究補助金 基盤 B(1)

「電子カルテ間のデータ交換を実現する看護実践分類および用語のモデル開発」研究チーム

水流 聡子 東京大学 大学院工学系研究科 (研究代表者)  
 中西 陸子 国際医療福祉大学  
 川村佐和子 東京都立保健科学大学  
 堀内 成子 聖路加看護大学  
 村嶋 幸代 東京大学 大学院医学系研究科  
 萱間 真美 東京大学 大学院医学系研究科  
 石垣 恭子 島根大学  
 宇都由美子 鹿児島大学  
 高見 美樹 島根大学  
 江藤 宏美 聖路加看護大学  
 本道 和子 東京都立保健科学大学  
 井上真奈美 山口県立大学  
 日高 陵好 国際医療福祉大学  
 内野 聖子 国際医療福祉大学  
 柏木 聖代 日本看護協会  
 田口 敦子 東京大学 大学院医学系研究科  
 美代 賢吾 東京大学医学部附属病院  
 横山 梓 東京大学 大学院医学系研究科修士課程  
 長岡由紀子 聖路加看護大学大学院博士課程  
 沢田 秋 東京大学 大学院医学系研究科修士課程

(4) 今後の予定

現在の用語一覧につきまして、皆様からいただいた、コメント、ご意見に基づき、必要とするケア事例・説明等の追加・コード化等の作業を行い、平成 15 年度中に初版を完成・公開する予定です。

## 5. 関連資料のダウンロード

該当する資料を選択してください。

- (1) 看護実践用語標準マスター（看護行為編）
- (2) 看護実践用語標準マスターの概要

## 6. 「看護実践用語標準マスター」の評価、ご意見について

看護実践用語標準マスターについての評価及びご意見につきましては、お手数ですが、次をクリックし、表示された「看護実践用語標準マスター評価調査票」よりご入力ください。

「看護実践用語標準マスター評価調査票（看護行為編）」の入力

## 7. お問い合わせ先

〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4

(財)医療情報システム開発センター

看護用語標準化担当 (kangoyogo@medis.or.jp)

TEL 03-3586-6321

FAX 03-3505-1996

1-6

## 看護実践用語標準マスターの概要

### <看護行為編>

基本看護実践標準用語

高度専門看護実践標準用語

2003年12月

(財) 医療情報システム開発センター(MEDIS-DC)

看護用語の標準化検討委員会



## 看護実践用語標準マスターの作成にあたって

1. なぜつくったか（作成の背景）
2. どのような考え方でつくったか
3. どのようにつくったか
4. 使いやすくするため工夫したこと
5. 全体の枠組みはどうなっているのか
6. 当該マスターファイルの実装例
7. ユーザーのナースに期待すること

## 検討組織

## 看護実践用語標準マスターの作成にあたって

質の高い効率的な医療を実現するため、多くの医療関係職種がチーム医療の中で取り組む課題があります。平成14年度に設置された「新たな看護のあり方に関する検討会」では、看護が取り組むべき課題を他の医療関係職種との役割分担や連携のあり方も踏まえ、医療改革に貢献すべく検討が行われました。平成15年3月24日に提出された本検討会の報告書を踏まえ、看護実践用語標準マスター（看護行為編）が作成されました。このマスターは、看護実践現場で実際に使用されている用語を収集し、チーム医療の中で看護の役割や専門性を示す本質的な部分を抽出し、行われているあるいは行われつつある看護ケアサービス全体を再構築する作業を通して、作成されました。

### 1. なぜつくったか（作成の背景）

- ミレニアムプロジェクトのこと。
- 医療情報電子化の流れのなかで、看護だけ遅れていること。
- その結果が招くものは、看護のしていることがいつまでも認知されないということ。

現在進行している e-Japan 戦略を受け、「保健医療分野の情報化にむけてのグランドデザイン〈最終提言〉」の中で、医療情報システム構築のための達成目標が、以下のように示されました。このような電子化には、様々な運用と使用する用語の標準が必要となります。医師による治療や薬剤に関する行為や取り扱う対象等の標準化作業は以前から進行していましたが、今回、看護領域も標準化の対象としてあげられました。看護実践で用いる用語の標準化は、電子化のためというよりも、質保証・評価のために必須です。この機会をのがさずに作業を進めることが重要と考え、看護がチーム医療の中で、どのようなケアサービスを、患者・クライアント・家族等に提供しているのかをあきらかにすることが優先されると判断し、「看護実践用語マスター（行為編）」の開発に取り組みました。

#### 【電子カルテ】

・平成16年度まで

全国の二次医療圏毎に少なくとも一施設は電子カルテの普及を図る

・平成18年度まで

全国の400床以上の病院の6割以上に普及

全診療所の6割以上に普及

#### 【レセプト電算処理システム】

・平成16年度まで

全国の病院の5割以上に普及

・平成18年度まで

全国の病院の7割以上に普及

## 2. どのような考え方でつくったか

以下のような点に焦点をしぼり、作成しました。

①ナースが現場で実際に行っていることを書きあらわす言葉にしぼる。

●看護診断や看護問題は入っていません。

②あくまで看護の現場に役立てる。

●"By the field, for the field, of the field."

③現実性と将来性をかね備えたものとする。

●診療報酬の現状を考慮しつつ、将来的には看護報酬の体系が作りやすいよう構想する。

●看護の専門性を説く理論枠を念頭におく。

④現場の変化やニーズに応じて引き続き改変を重ねる作業を行う。

⑤ICNP, NIC, NANDA, SNOMED-CT など他の用語体系との照合は、今後研究的にすすめる必要がある。

## 3. どのようにつくったか

1)まず、ナースが実際に使っている用語をあつめて仮分類しました。

●看護裁量の大きい日常生活ケア・指導教育など3, 776件。

オーダリングシステム等を導入している施設で実際に利用している用語(電子データ)の中から、「看護行為」等を表現する用語を収集(7, 503件)し、そのうち、医療処置等をのぞく、看護裁量の大きい日常生活ケア・指導教育など3, 776件を、今回の作業対象領域としました。(「MEDIS-DC 看護行為用語収集作業班」で収集・仮分類に

整理)

2)用語を階層化しました。

●マスターファイルの構造が看護の目的に合致しているように、第1～第4階層に分ける。

第1階層：看護行為の対象・目的・専門性の程度によって区分した包括的な分類

第2階層：第1階層の各範疇を目的別に区分した分類

第3階層：第2階層の各範疇に入る具体的な行為目録

第4階層：第3階層の行為を状況・方法に応じて分類したもの

(部位、サポートレベル、選択した方法・内容)

……第4階層は必要なものだけ準備

3)このなかから看護の専門性をより多くもっているものを選びました。

●より高い専門性をもつものを「高度専門看護実践用語」とする。

●他は「基本看護実践用語」とする。

4)臨床現場においては、看護ケアとして理論的に検証されて提供されているものだけでなく、患者ニーズを充足する上で必要とされるケアを、次々と、ある意味では無意識的に生産して提供しています。未だ、成熟していないそのようなレベルのケア・萌芽的レベルのケアも固まりとして抽出して命名し準備しました。

5)本マスター準備にあたって、以下の組織メンバー(別紙)の多大なるご協力をいただきました。

◆「日本医療情報学会課題研究会：電子看護記録研究会」

◆本委員会 下部組織 「小児看護分野における看護用語検討作業メンバー」

◆平成14-15年度文部科学省科学研究補助金 基盤B(1)

「電子カルテ間のデータ交換を実現する看護実践分類および用語のモデル開発」研究チーム

#### 4. 使いやすくするため工夫したこと

● 第1階層と第2階層は、定義を設定した。

● 第3階層は、混乱しそうなものについて、ケア事例を準備した。

● 第3階層の行為名は、粒度(個々の固まりの大きさ)が必ずしも一定ではない。